

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	57	大学等名	長崎短期大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、全学的な事業推進のため、「国際交流・地域連携推進委員会」において各学科の教員が参加する会議を重ねる等の取組により、補助期間中に最大3か月の有給インターンシップや海外留学、Awesome Sasebo! Project など独自の教育システムを確立させ、さらには地域共生学科の設立という成果を上げている点は高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、2年間という限られた就業年限の中で、4学期制及びギャップイヤーの導入、地域連携など、申請時の計画に基づき真摯に事業に取り組み、学生の学修意欲の向上や教職員の意識改革につながる成果を上げており、十分評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長のガバナンスの下、全学科の教員と事務局員からなる「国際交流・地域連携委員会」を主管とし、その中に「“Awesome Sasebo! Project”推進室」が新設され、各委員会と連携して事業を推進するという、全学的な事業推進体制が構築されている。また、補助期間終了後は上記推進室の機能を国際交流委員会、地域連携・プラットフォーム事業委員会に分けるとともに、令和2年度には地域共生学科が新設されることから、全学的に本事業を継続、発展させていくための新たな学内体制を整備し、地域連携を推進していると十分評価できる。

事業成果の普及については、日本インターンシップ学会において評価された「有給インターンシップ制度」は、学生が資金を心配せずに長期学外学修プログラムに参加できる仕組みとして評価できるものであることから、今後も積極的な情報発信・普及活動に努め、他大学等への波及が期待される。